カミサマ地帯

桐藤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
カミサマ地帯

【Ｎコード】
Ｎ０９８３Ｄ

【作者名】
桐藤

【あらすじ】
いつものように過ごしていた拓斗と雫だが、そんな二人を見ているモノ・・・いつ、どんな風に二人にかかわっていくのか・・・ファンタジー&恋愛モノです！

1

第1章

「く・・・ふぁぁぁぁ」

眠そうにあくびをしているのは・・

・そう、俺、郡山（コオリヤマ）　拓斗（タクト）

「何眠そうにあくびしてんの？もうお昼だよ？」

んで、こっちが俺の父さんの方の従姉妹の郡山（コオリヤマ）　雫（シズク）

俺的に郡山って名前・・何て言うか、寒いってイメージしか・・・

作≪こら！人の付けた名前にいちいち文句言うな！大変だろ！

「・・・？空耳か・・・」

「こら！人の言ったことを無視すんな！！」

「は？お前なんか言った？」

う～む、逆ギレされても困る・・・

「あー！やっぱり聞いてなかった！！」

あ？なんか言ったのか？

「おい！さっさと書け！」

「あぁ！先輩！」

で、こちらが萩谷（ハギタニ）　凪（ナギ）先輩です・・・名前だけは女に見えますが、
実際は素晴らしく男の人です。

「てめぇなぁ・・・俺がわざわざ家からきてやったのにあくびをすると・・・いい度胸だなぁ」

おぉ！忘れてた忘れてた・・・。
テストで分からないから教えてくれって言ったんだった。

「おらおら！ほら次次！！」

「ひー！」

半べそです。つらいです。言わなければ良かったなぁ・・・トホ←

「拓斗！早くやる！」

「お前は黙れ～！」

――――――

「あれが・・・やっと見つけた！女神様」

一人は銀髪、紅眼、そしてステンドガラスのような羽

「ほぅ・・・だが、あれが、あの方ですか？全く前とご様子が・・・」

もう一人はエメラルド色の髪、碧眼、そして、ぼろぼろで、しかし美しい蒼い羽

「いや！あれは絶対に女神様だ！絶対！僕には分かる」

「・・・・あんな事をしている輩が・・・？」

「う・・・・・」

――――――

「ハ・・・ハ・・・・ハックショィ！！」

なんか、風邪でもないのにくしゃみが・・・あぁ、またっ！

「クショイ！」

「ウワー、拓斗誰かにけなされてるんじゃない？」

「うっさい！」

「こら！早く次の問題をやれ」

・・・・・・

こんな意味不明な（？）ある意味で、普段どおりの生活の俺

「あぁ～あ。まだ手を振ってるぜ？雫チャン」

「・・・・」

「カワイイねぇ～」

「・・・・」

「こら！なんか反応しやがれ！」

無言なだけなのに殴られた・・・そう、やっぱり俺は、好きなんです。あの子が。

「家近いっていうなら何で今日は、一緒に帰らないんだ？」

「今日はバーゲンがあるって・・・先輩笑わんで下さい」

「くくく・・・お前よりもバーゲン・・・」

はぁ・・・なんでなんだろうなぁ・・・何で従姉妹なんだろう・・・
でも、それ以上に何か・・・感じる。来い・・・鯉　故意恋濃い
請い乞い恋い
・・・はぁ、何なんだろう。

――――――

「ク・・・ゲ・・・ククク・・アレガ、女神ノ生マレ変ワリカ・・・
ククク」

天空から、得体の知れない物から見られているとも知らず、いつもの
日常を過ごしている拓斗。

2（前書き）

スイマセン。前回を読んでいる人は分かると思いますが、ナレーターが拓斗から作者へと変更しました。これからもこんな事が度々あると思いますが、ご了承下さい。スイマセン。

2

第2章

――――――

拓斗の家上空に、二人の物が浮いていた。

「君は本当にあの輩があのお方だと思っているんですか？」

「あぁ」

「それは買いかぶりと言うものではないでしょうか？実際にあの者に魔力（アストラルパワー）を感じたのですか？」

「・・・微かだが、ほんの少しあの方と同じモノを感じた。それが本当にそうなのかは分からないけど、今まで少しでも同じモノを感じたことは無い。それに、あれの顔は、絶対にマナの女神様だ！！あの、キリッとした感じとか、人を圧倒する威圧感・・・・・・・」

あまりにも長いので以下略。

そして、はじめに話し始めた・・・フィリアが呆れながら言った。

「君の女神様への尊敬は聞いていません。あの輩が女神の転生先か、それへの君の意見を聞いているのです」

我に返って、後者が・・・ミルティスが言った。だが、それも自身がなさそうに・・・。

「いや、はっきりとは分からない・・・。確かめなければ・・・」

「・・・そうするとしましょうか」

―――――――

次の日

「・・・・・」

一人無言で歩いている拓斗。が、

「あ、拓斗～！一緒に行こう！」

大声で拓斗を呼び止めたのは雫

「ん？あぁ」

「んにゃ？元気ないね、どうしたの？」

「いや・・・別になんでもないけど・・お前が心配するなんて今日は大丈夫か？」

「・・・む」

朝から言い争う二人。傍から見ればカップルだ。

「あ、遅れちゃうよ！早く行こう！」

「あ、おい！」

そんなタクトを置いて走り出す雫。笑いながら追いかける拓斗。

（実際とは多少異な　ります）

「それでだなぁ、～～～～が～～～～で、～～＋～の公式で、～～～・・・・」

（こんな親父の言うことなんて耳に入ってるのか？皆・・・）

さて、こんな時間も過ぎ放火・・・じゃなくて、放課後

「拓斗！」

「・・・・」

「シカとすんな！」

ボキッ

「いってぇ！この暴力女！」

「何よ！人の話ぐらい聞きなさい！」

ギャーギャー騒いでいる二人。そこに、一人の少女が・・・すん

ごくすまなそうに、か細い　声で言った。

「あ・・・あの」

「あ！！！！！」

思いっきり気まずそうな顔をする雫。が、

「あ、あのね、この子は西宮（ニシノミヤ）　楓（カエデ）ちゃん・・・霊感？って言うかそういう系のが見えるんだって。すごいよね！」

「へぇー」

（すご・・い！この人今まで見たこと無い背中から綺麗な羽のようなオーラが出てて・・・
なんか、ハジメ・・・）

‘テ’と言おうとした楓だったが遮られて、

「平凡・・・」

「・・・」

そりゃぁ、初対面でいきなり平凡って言われたら、誰でも無言になります。

「ごめんね。雫・・・チャン私先に帰る！」

ボカッ！

「いてぇな！」

「馬鹿」

走り去るのを見ているだけの拓斗であった。

――――――

「あ～んな、思慮のかけらも無い輩が・・・？」

「僕も自信なくしてきました」

――――――

「・・・・・」

何で殴られたのか、意味が分かっていない御様子の拓斗。ご愁傷様。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0983d/

カミサマ地帯

2010年12月19日13時56分発行